

枚野井のぼん

吉山清一さん（88歳、招提元町在住）

△そのⅠ▽

1990. 3. 1号

招提尋常小学校

僕が生まれたのは、明治三十五年の五月四日です。ちょっと耳が遠くて難聴の気がありましてね、この五月で満で十八歳になります。もう化け物ですよ。この土地でへその緒を落しましたよ。

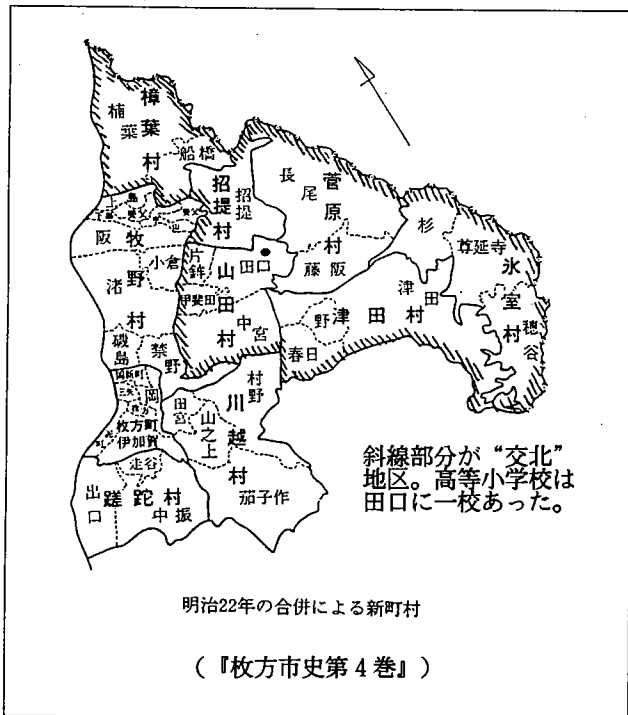
僕の入った招提尋常小学校ができたのは明治四十二年で、できた年に入ったわけです。それまでは、招提小学校はこの（招提の村の）入口の篠原いう家のところであって、明治四十一年に廃校になったんですね。その頃は、阪を抜いた四ヶ郷（養父、上島、下島、宇山）と招提が、みな招提小学校に来てたんですよ。それだけが招提村に入ってたんでん。四十一年に廃校になって新しい学校ができるまで、僕らの先輩は一年間敬応寺のお寺で勉強したんですよ。

そして、今招提公民館のあるところに、明治四十二年に招提

尋常小学校が開校しました。その第一回の入学者が僕らのクラスです。千五、六百坪の敷地がありましたよ。

高等科も設置

この辺一带は、「交南」（交野郡南部）に対して「交北」言うてました。私部へんは交南ですね。交北には六カ村あって、招提、樟葉、菅原、山田、津田、氷室です。これが寄って田口に高等小学校を持つとったんですわ。今も敷地があるでしょ、旧高野街道に面したところに。ところが、氷室へ



んからこんなとこまで通うのはかなわんですよねえ。今の杉、尊延寺からやってくるんですから。で、これが廢校になって尋常小学校の上に高等科を併置しよったんですわ。それで、招提尋常高等小学校となっただんす。

こうして、僕が四年生のときに交北校が廢校になって、こっちへ帰ってきました。だから今の楠葉へんからでも、田口^{たぐち}まで通ったんすよ。

殿二小学校に

それで、昭和九年の例の室戸台風の結果、牧野小学校が倒壊しました。そして災害復旧のふところ事情から牧野村と招提村が合併して殿山町になって、牧野小学校が殿山第一小学校になり、招提小学校が殿山第二小学校になっただんす。

だから、今の牧野小学校、招提小学校は、その後に来た別の学校です。殿二の前身は招提小学校です。だから、招提小学校の古い沿革史なんかは皆あそこ（殿二小学校）にある。今の招提小学校は、できて間なしいうか、十年以上にはなりません、名前は古い名前でも学校は新しいわけです。

牧野村と合併して、牧野北部も通学区域に入るため、招提小学校からもう少し牧野寄りに殿二小学校が建設されることになって、新築がなったのは昭和十二年ですわ。それから、皆転校していったんす。

招提小学校は台風でつぶれはしなかつたんですけど、講堂もないし体育館ありません。普通教室と職員室、その端っこに招提村の役場があって、それと別棟に交北から帰ってきた高等科の教室二教室があった。教室はぜんぶで十教室しかないんです。ここに、新築できるまでしばらく通ったんす。

昼に走って往復

殿二小学校行ってからのことですが、皆なかなか弁当なか持ってきよらへん。そのかわり、よう走りよった。運動会いうたら選手が多いですわ。毎日走っとるから。昼の休けい時間は一時間しかないでしよ、だからうちに帰って昼飯ガサガサッと食べて、またバックせならん。そうせんと上島^{かみしま}へんは間に合わんすわ。

よう走る子がいましたよ。殿二校は、北河内郡の運動会でも優勝しよったもん。北河内郡連合運動会いうのがありましてね、三十一校の中で優勝しました。古い賞状があるはずやけど、もうほかしてしまっただんす。んなあ。（笑）

今から見るとその頃は、一学



級で男女合わせて六十何人ですわ。教室は四間に五間で決まってるでしょ。それに机を四列（二人用のもの）を並べるわけですわ。机と机の幅がそんなにあらへんですわ。横になつて歩いていかならん。教室足らんから詰め込んで授業してるんですよ。今やったらややこしいことですわえ。

「中学校はあかん」

私は尋常小学校出て、上の学校行ってませんねん。検定試験ですわねん。六年生卒業するときに四條畷中学校に入れてくれて、親にたのみましてん。入れてくれよらん。「あかん」て。高等小学校入らなしようない。ところが、おかしなこと言いますけど、自分より成績が下の友達も皆中学校に行きよる。「負けるか！」という気があるでしょう、そこへ私を指導してくれた人がよかつたんですわえ。

吉田清治さん

私の隣に、もう死にましたけど、府大の名誉教授になった吉田清治さんがいたんです。それが、小さいときから僕を兄弟のように育ててくれたんですわ。「この本読め、この本読め」言うてね。日本史の先生ですわ。枚方市史の編纂もやってはりました。その人が道一つ隔てた裏で、私は始終そこへ行ってました。

ところがその人も、四條畷中学二年のときに脚氣衝心（脚氣が進行して心臓を冒すこと）したんです。それで学校行かれへんから、二年で退学したんです。雨が降ってそのしずく吸ったり、雀がチュンチュン鳴いたら、それがこたえる言ってます。そこまでのえらい重病になったんです。それでも命はあつたんですわえ。

ところが、自分の中学の同級生は、皆高等学校行ったり中学行くでしょう。だから、身体が弱い人やったけど、一生懸命努力して独学したんです。その弱い身体で大学の門くぐりたてかなわん。それで文検（旧制の文部省教員検定試験）通つて、日本史の先生しとつて、結局嫁さんと子供連れて東北帝大へ入学したですよ、四年間。ほんで帰ってきて、浪高（浪速高等学校、今の大阪大学の前身）の教授になりました。私はこの人の影響受けたんですわえ。

英語はお手上げ

その時分は、上の学校へ行こう思たら高等学校受験の資格試験か、専検言うて旧制専門学校入学の資格試験受けんならん。吉田清治さんは、弱い身体で、ぜんぶパスしたんですわ。僕も百姓の家に生まれたわけやけど、百姓で終わるのとはかなわんけど学校やってくれよらん。

それで僕も専検受けたる思てやってみたけど、いちばん勉

強で難儀したのは英語ですわ。英語の独学、これがなかなかできまへんのだ。大阪の土佐堀にある青年何とかという夜学にも行きましたが、むづかしい。

英語の科目がないのやったら、小学校教員の検定試験は英語ないんです。あとはぜんぶあります。学校管理とか教育史とかいろいろありますけど、それより英語の方がむづかしい。A、B、C……あれ覚えられしまへんねん、独学では。私の親父がまたきつい親父でねえ、百姓を私に仕込みよる。それがすんで、夜さり勉強せなしようないですよ。で、小学校準教員いう最初の試験受けたら、かかった。免状送ってきたけど、まだ百姓してます。

「ちょっと来い」

そしたらある日、村長さんが僕に「ちょっと来い」言うてきはった。私の友達に「村長さんに呼ばれるような悪い事何もしてへんのかなあ」言うたら、「何叱られるんや」「知りまへんわ」言うて、不安な面持ちで役場行きました。

村長さんも知ってることは知ってるけどねえ、入って行ったら小使いさんが、「吉山君か、まあ上へあがり」てニコニコしてはる。恐る恐る村長の前へ行ったら、「こんなもん来てるわ」、そんなところへ教員合格の免許状送ってきよった。

それでまあ、私が小学校の免許状持ってるということは役場が

知ったわけです。

教師になる

そのとき、招提小学校の女の先生が病気になりはって再起不能ということで、そのかわり僕に教師になれ、来んか、言うてきて、「はい」いうわけで、代用教員ですわ。それが大正九年の十月七日。中途半端なときですわ。月給三十三円もろて、代用教員。年明けて、今度は資格があるから月給三十五円に上げてもらて、それが僕の教員になった最初です。

五年生を持ちました。その五年生は、私が高等二年生を卒業するときに小学一年生の奴だ。そいつが五年生のとき、私教えましてん。だから、私の教えた第一回の卒業生は、今八十二(数え)になってます。つまり、数え十九で先生になったわけです。

尋常小学校の準教員では飯が食えない。そこでまたちょっと苦労して、小学校本科正教員の検定試験受けて、資格をとりました。これで当時の師範学校出と同じ資格になった。それでも高等科教える資格はない。尋常は、最初四年まででしたけど、二年か三年で六年までになってました。高等科も二年から四年になってましたけど、それは義務教育と違いますわねえ。我々のときの高等科二年生もやっぱりこれは義務教育と違いますから、行きたいもんは行ったらええし、嫌なも

んはやめたらええ。そういう制度でしたわ。

(続く)



木造校舎はよかった

殿二小学校は、前はええ校舎でしたよ。室戸台風でたくさん学校が倒壊したもんだから、建築の監督がものすごいきつかったですよ。柱も五寸角の檜ひのきの、そりゃあ立派なもんでした。いちいち府から検査に来るしね。壁塗りも、早よさせへんですよ。組み立ててちゃんと検査終わってから壁塗りするわけです。僕らその殿二小学校に長い間おったもんですから、その校舎には懐かしい思いを受けます。今の校舎は、懐かしい思い受けんですね。(笑) たまに行きますけど、いいなあいう感じしませんね。木造建築で一階建てですから、コの字になって、長い廊下がずうーっと走ってました。

「鉄筋にせえ」

それと話が逆になりますが、教師やめてからちよっと市会

牧野井田さん

吉山清一さん(88歳、招提元町在住)

△その2▽

1990. 4. 1号

に關係してたとき、私は文教委員長やとった。その時分は増築、増築言うてたときで、その増築は鉄筋でやれて皆が言うてた。殿二小学校も生徒と職員増えてくるから、四教室増築せなあかん。そしたら地元が、鉄筋でしてもらえ、鉄筋でしてもらえ言うてる。ぜんぶ木造でしょう。鉄筋にせなあかんなあいうことで。その時分は寺嶋市長で、藤井さんが助役やった。文教委員会に設計図添えて議案を提出してきた。見たら木造ですわ。文教委員会は皆鉄筋にせえ言うとして、委員が僕に味方してくれよ。だから否決や。議案出しても三べんとも否決や。しまいに藤井さん、頭抱かまえとんねん。予算あらへん言うて。ところが議案は通らへん。そういうことで、増築では最初の鉄筋の校舎が建ったんですわ。昭和三十九年やったと思います。

「えらいこっちゃ！」

禁野の火薬庫が爆発したとき（昭和十四年三月一日）、僕ちようど風邪引いて学校休んでました。ドーン、えらい音した。「あ、えらい音したなあ」、そしたらまたしばらくしてドーン……「こりやちよっと何か見てみい」言うてたら、「えらいこっちゃ！ 禁野の火薬庫爆発したらしい」言うて人が走っとる。それで私は殿二小学校へ行った。子供が気にかかりますからな。寝巻来たままで藪の間通って谷を下へ降

りて、バツと走った。

殿二小学校行ったら、講堂のまわりやそこらへん、履きもん放ったらかして、みんな裸足でどっか逃げておらへん。小使いおったから、「どこ行きよってんなあ」

「どこ行つたんか、この下へダア一ツと降りて塚本の方、藪下の田んぼ道を走って行きましてえ」

いうことや。担任の教師もいやらへん。したら、そこへ農業の専科の先生一人残つとって、「皆どこ

行きよってんなあ」「いやあ、北の方へ走って行きよつたですで」

「走って行つたって、履きもん皆

ひっくり返つたるやないか」……その時分は草履が多いですよ、「裸足で行って足突いたりしたらどないすんねん」。

谷で夜を明かす

今さら高いところから見ても人の影も何も見えへんし、どこ行きよつたかわからん。「まあ、どこからなと連絡しよるやろ」言うてた。したら日暮れになったら、「今八幡の小学校



火薬庫の爆発で被害を受けた中宮病院

『枚方市史』第四巻より

禁野火薬庫爆発状況

回次	爆発時間	程度	回次	爆発時間	程度
1	時 分 2. 40	小	16	時 分 4. 08	大
2	3. 30	大	17	4. 12	大
3	3. 39	大	18	4. 13	大
4	3. 42	小	19	4. 16	大
5	3. 44	小	20	4. 17	大
6	3. 45	小	21	4. 20	大
7	3. 45	小	22	4. 36	大
8	3. 46	大	23	4. 41	大
9	3. 48	大	24	4. 44	大
10	3. 49	大	25	5. 03	大
11	3. 52	大	26	5. 13	大
12	4. 00	大	27	5. 25	大
13	4. 04	大	28	5. 45	大
14	4. 05	大	29	6. 55	大
15	4. 07	大			

『枚方市史』第4巻より

爆発は29回も続いた…

厄介なってる」て連絡が入った。そこで一晩泊めてもらいよ
った。

破片がこの辺まで飛んでくることはなかったが、風圧がき
つかった。ドゥッと風圧がきよる。

晩になったら、「今度は地下に火が移る。地下に倉庫があ
って、その地下はどこまできてるかわからへん」……そんな
もん、爆発したらここらみなひっくり返ってまう。「逃げよ、
逃げよ」て言うてる。逃げよ言うて、どこ逃げるねん。行
くとこあらへん。警察が道を「避難せえー、避難せえー」言

うてくる。

冬の寒い日や。飯炊いて、お
ひつにいっぱい入れて、おかず
いうたら漬けもんぐらいしかあ
らへん。爆発してドーンときた
かてどうもない谷の間へ行くこ
とになって、そこに一晩泊まっ
た。家砕けてしまうかもわから
へんもんね。結局はえらいこと
なかったけど、招提は何もなか
ったけど、中宮、宮之阪、渚の
方は、類焼で全滅でしたわな
あ。

必死に戸を押さえて

室戸台風も、招提村と牧野村が合併になった原因やけど、
牧野小学校（今の殿一小学校）はいちばん新しい校舎がこけ

禁野火薬庫爆発による住宅罹災者世帯数

種 別	一戸・間借の別	世 帯 数	備 考
全 焼	一 戸 住 居	293	管外に転居した者、工販勤務者等全部 一般家庭に間借している者の外、松村組 ・工販工具宿舎・アパート住等を含む
	間 借	534	
全 壊	一 戸 住 居	3	御救恤金拝受数
	間 借	(6) 6	
半焼・半壊	一 戸 住 居	11	御救恤金拝受数
	間 借	(423) 5	

『枚方市史』第四巻より
()内は義捐金交付者

よってん。新しい校舎は大丈夫や思て先生が皆そこへ避難させたら、それが倒壊しよった。

僕はそのとき、いちばん南の端のいちばん風当たりのきついとこの教室にいました。明治四十二年に建った校舎でしよ、ボロ校舎ですわ。そこに五年生がおった。アツと言うてる間にえらい風がきてねえ、もう外に出られへんですわ。筋交の入っている壁がペコペコペコして、入口のドアも虫くっててなんどき飛んでくかわからへん。だから「押せえ」と生徒に入口押さえさせたら、上から土がダラダラと落ちてくる。

「一緒に死のう」

「こんなとこで押してられへんやんか、先生！」「そんなら止めよう」。しかし、何とかして出さなにかんないかと思て、風当たりの弱い窓から出そうとした。校舎こけたらかなんやらねえ。「風きつないとき、この窓から跳んで出て逃げる」、男の子は早い。窓から跳んで降りよる。

そしたら上から瓦がガチャガチャ落ちてきよる。

「あつ、あかんわ。そんなとこから降りたらあかん。もう一回入れーっ」「出よ」「入れ」、そんなことばっかし言うてる。「先生、どないしてええかわからへんやんか」、そらそらうや。こっちかてどないしてええかわからへん。

で、しょうがないから「皆死ぬんやったら一緒に死のう」で、教壇に立ってそう言った。「そのかわり、おまえら皆机の下へ頭突っ込め。そして机の足を持て」。上からこけたかて机が固定するように、「足持て」言うた。「死ぬんやったら一緒に死のう」……そしたら、女の子がわあーと泣きよった。そんなでしたよ。

牛が……

そしたら隣の教室との間が、壁土やなしに板張りやったで、黒板の下の板を、隣の教室どないしとるか見よ思て一枚破ったんです。板が裂けて、見たら、窓際に寄って西向いて「アハハハ」て笑とる。何笑とるか見たら、今池いう池があるんです。今池の堤を、牛が走っとる。隣の教室は風が当たたらへんから、「牛来よった、牛来よった」て笑てる。

それで板をパァとすくって、「釘いっぱいだたるさかいに、あわてて押し合いせんと隣の四年生の教室入れ」言うて移動させました。そしたらやと風がおさまりました。牧野小学校の二階建の校舎がこけたとか、いろんなニュースが入ってきました。

敬応寺もこけた

招提の敬応寺もこけてしもうた、ペシャーンと。敬応寺こ

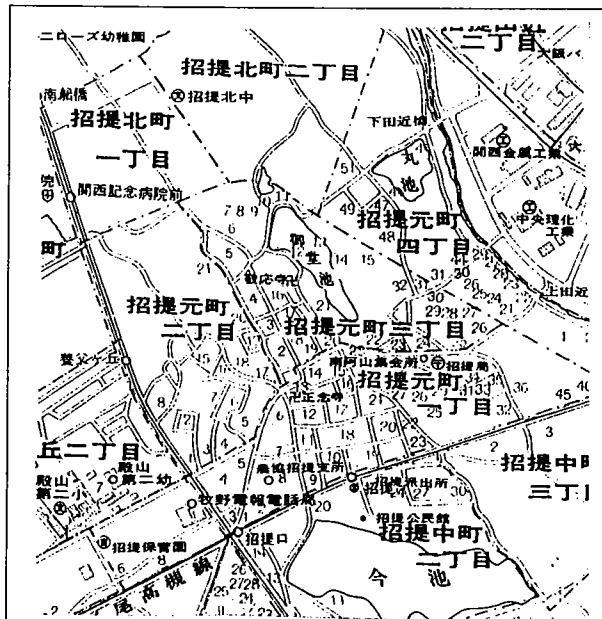


牧野尋常高等小学校の倒壊校舎

けたて、びっくりしますがな。そこらのワラぶきというワラぶきは皆屋根がとんでる。道やらそこらの屋敷も、ごもくでいっぱいや。瓦なんて、紙屑みたいですよ。ピヤーと飛んでる。はじめはわからへんかった。えらい紙屑飛んでるなあー思ってた。そしたら、何と、瓦ですよ。

招提の日置神社のところに、ごっつい松の木があった。その松の気の太い太い枝が折れて飛ばされて、池の真ん中に落ちた。そりゃあきつい風でしたわねえ。当時の測定の機械で測定できんぐらいの風ですわ。風速六十メートルか七十メートルぐらいあったんでしょ。

あつという間ですわ。はじめ風がきつうて雨シャアシャア降ったるさかい、男の子は、運動場走り回っておどって喜んでる。まだ授業するのに早いけども、雨に濡れて風邪引いたらかなんさかいに、担任は皆教室行って生徒を教室に入れようということになった。「中入れー」言うて入れたら、見てる間にきつい風、来ました。もう教室同士連絡とれへん。台風情報とかないから、いきなりですわ。肋木という体操の道具ありますが、肋木もバ



招提元町のあたりが、旧招提の集落である。村の周囲に環濠をめぐるしていた。

ッシャーンてこげよった。「えらいこっちゃんなあー」、そんな経験あれしませんもん。そうでしょう、みんな。幸い、うちの学校は一人も怪我人出んかった。

(続く)

牧野井田さん

吉山清一さん（88歳、招提元町在住）

△その3▽

1990. 5. 1号

青年学校で教える

昭和十八年に教師を辞めて、京阪神急行の青年学校行きました。京阪神急行いうたら、阪神と京阪の前身や。あとで分れて、三島郡の方を走っとる京都行く線を「新京阪、新京阪」言っていました。当時本社は梅田にあって、青年学校が茨木にあったんです。

枚方から高槻まで木炭自動車のバスが走って、僕はそれに乗って通ったんですが、なかなか時間通りに来よらん。枚方の西口（今の枚方公園駅）から出るんですが、時と場合によったら歩く方が早い。その時は戦時中ですからゲートル巻いて防火頭巾持ってきててく。ようあんなん歩いたなあ思う。バスがいつくるかわからん。自分とこの会社のバスですけど、そんなだったです。（笑）

学校は、今の阪急の茨木駅のところに、青年学校の建物が

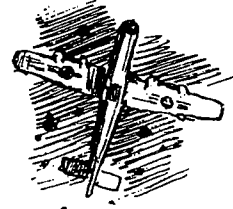
ありましたよ。生徒はみんな交通関係に従事しとる従業員でしよう。あんまり来よらん。勤務時間中やから。青年学校なんてもん、形式的ですわ。

いつも六時五十分牧野発の電車に乗るんです。ところがね、そのためには自転車で駅まで行くのに六時半ぐらいに出んならん。ここらへんはちょっと坂でしょう。殿二小学校のそこをシャワーで走ると、寒い。ピヤーツとしまき（風巻。激しく吹きまくる風のこと）来ますわ。宇山の辺まで行ったら、手も足もみんなしびれてしもたる。五十五になって定年になつたら朝ゆっくり寝んならん……そればかり頭にあったですわ。駅前に笠井さんという大きな家があるでしょう、あそこに自転車預けて電車に乗るんです。

子供の教育に金もかかるから、四時に青年学校終わると、それから大阪の夜学に教えに行きましたよ。大阪の南森町まで。今野球の強い大成高校の前身ですわ。「大阪工学校」いうて、天神さんの裏の方にあつたんです。授業終わるのが九時で、帰ってきたらたいがい十時は越してますわ。

灯火管制の中で

その時分は、空襲がくるんです。大阪の空心町から天満の辺、焼けてしもうてぜんぶ焼け野原や。もちろん、市電ももうあらへんしねえ。南森町から空心町通って天満橋まで歩か



なならん。その頃は淀屋橋のうて、天満橋が終点でしたよ。その京阪電車が、来るのやら来んのやらわからん。空襲警報鳴ったら、灯火管制で皆消灯しとるから、真っ暗がりですわ。

そやけど、我々は京阪の人間やから、ホームもだいたいわかります。今と違って地上駅でもっと簡単なホームやからね、改札やら何やらわかってますわね。もう九時半も過ぎてます。乗ってる人があるか、どやいなあ(どうかなあ)……と、中へずっと入っていても、真っ暗やさかいわからへん。ぼつんと腰かけたら「ハアア」とため息が聞こえる。「乗っとる乗っとる」と思てね。駅も電車も皆真っ暗やからね。

こうして考えてみたら、僕も勝手な苦勞してますよ。百姓嫌やったために、今から考えると、百姓しとった方がよかったなあ……と。(笑)

「ラブ・イズ・ベスト」

私はきょうだいはなし。兄貴はあったけど、腹違いのきょうだいやったんですわ。だから母は、私一人を頼りにしとったんですわ。後妻の子ですからね。家にはきょうだいはなし。

あったけれども皆先に死によった。で、もう私を頼りにしておったんですけど、私は親父孝行もようせんと、私の失敗で死なしてしもうてね。

私は、私の思想にあんまり忠実に生きすぎたんです。私らの若い時にはね、近代の文芸復興期、ルネッサンスみたいな時代でした。大正末期から昭和の初めにかけて、歌人から小説家、思想家、ぜんぶおったでしょう。いちばん名高いのが有島武郎、それに島崎藤村とかね。

私が特に影響を受けたのは京都大学の厨川白村(くわがはくむら)という人の「ラブ・イズ・ベスト」(『近代の恋愛観』)です。それに取り憑かれてしまった。それ読んで、で失敗してしまっただけね。(笑)しかしまあ人に迷惑だけはかけてこなかったけどね。

労働基準法普及の仕事

さて、終戦になって青年学校もなくなりました。そして京阪神急行が二つに分れるというので、我々社員は「京阪行くなと阪急行くなとお前ら好きな方へ行け」いうことや。どっちの会社でもかまへん。それで、通勤に便利やから、京阪に行っただけです。

以前守口に車庫おましたやろ。今デパートできてますが、あこはずうっと車庫でしてん。ちようどその頃に労働基準法

ができて、守口に労働基準監督署ができました。私は、会社の労働基準法の担当になって、労働衛生、労働安全、労働基準法の普及の仕事をする事になったんです。どんなことかしらんけど、守口の監督官はえらい可愛がってくれましてね。べつだん毎日仕事あれしませんよって、監督署に遊びに行きまんのや。(笑) 会社に行ってもぜんぜん仕事あれへんもん。

監督官に同行

「ちょっと監督署行ってくるで」言うたら、大きい顔できますがな。監督署やから。ほたら、「あこの工場視察に行くのん、吉山さん、あんたついてくか」「何しに私ついてくねん」言うて、ついてく。柴田いう監督官やった。よその工場の人、私のこと監督官みたいに思てる。「俺監督官ちゃうで。京阪の人間やで」言うて笑たりして。

普及会は、松下の今の社長を会長にして、三洋とかいろいろ入ってました。北河内の事務所いう事務所、ほとんど知ってますわ。毎日遊びに行ってたもん、監督官と一緒に。また、僕が監督官と違うとわかったら、僕の方が話しやすいですわね。監督官はやっぱり監督官やさかいに。「あっこ、あんばいしとかなあかんで」て、こっちから言うのとけるでしょう。陰で助言して応援もできる。そやから、よその会社行ったかて、わりあい親しいしてくれました。

茶を売りに行く

会社を定年(五十五歳)でやめてから三十何年たちます。でも、今だに行ったら可愛がってくれる会社ありますよ。私定年になったとき、親戚の茶問屋が家にやってきて、「お前、何や話聞いとったら北河内のあっちこっちの会社、顔よう知ってるみたいなあ。茶売りに行たらどやねん」て。「茶売りに行けて、俺に商売せえ言うのけ。俺、そんな経験ないぞ。茶なんてぜんぜん知らんやないか。『毎度ありがとうございませす』なんて言うたことあらへん」「俺ついてくがな。ついて説明するさかい」「お前ついてくんのやったら、俺紹介するぐらいするわ」。

それからずうーと片っ端から歩きました。大和田に東洋社という唐鋸屋（たがの）があった。そこが商売のいちばん最初やった。そこ行たら、「吉山さん、今日は何ですねん」「いや、今日ちょっと頼みにきましてん」。向こうの工場長が、「どうぞ応接室に」「今日は応接室なんて敷居高（たか）て入れられへん。頼みにきたさかいに」「まあええがな、茶などいれるさかいに」……。まあ、そんなことで、右から左までみんな茶買（ちがひ）うてくれる。

「毎度ありがとう」が言えない

さあ、それから次は集金に行かなならん。私は集金なんてした経験ないでしょう、「毎度ありがとうございます。今日集金に寄せてもらいました」……わかつたるけど、それが言われへん。松下なんかは窓口で請求書出したら、女の事務員がピッピッと勘定して払ってくれるから、「ありがとう」て帰れるけど、事務所の上上がっていかなならんところがある。集金日に行て、「こんにちは」……そのあとが何も言われへん。女の子としゃべって遊んどる。

そしたら課長が、「吉山さん、あんた今日何しにきてん」「今日かいな……」、向こうも笑とる。「今日かいなてあんた、集金にきたんと違うの」「そやねん」「ほなら、そのいちばん肝心な事言わんかいな」「それが言われへんねん」。「今日集金に寄せていただきました。毎度ありがとうございしました」って、ここ（喉^{のど}）まで出たるけど、それから出てきやへん。「金集めることいちばん肝心やのに、それ言わなんだらあかんやないか」「そらわかかつたる」「わかかつたる言うたかて……」て笑とる。そんな経験もありました。おかしな経験してきまして、僕ら。単純な生活やなかつたからなあ。

農協の分裂

会社を定年でやめた頃、この村はひっくり返ってました。農協（招提農業共同組合）が経済破綻して、部落が真つ二つに分れてしまった。ほんで、農協が二つでけた。日置農協と新生農協や。そのときにちょうど私は会社をやめたわけや。五月四日ですわなあ。そしたら、村のそのときの自治会の幹部がうちへ来よつた。「あんた、会社定年でやめたんやてなあ。区長やらんか」「区長？ そんなん、俺村の事情わからへんのに、あかんあかん。そんなえらい仕事ようせんわ。知つてるように、俺今まで雀みたいな生活やつとつた。朝出て日暮れ帰つてきて、村の事情なんかさっぱりわからへん。毎日雀みたいな生活やつとつた者が、今、区長みたいなそんなえらい仕事ようせんわ」。

嫌や、言うのに何言うても聞きよらへん。「かんにんしとくれ」言うてるのに、みんなで寄つてたかつて区長にさせられてしもうた。しかたないから区長なつて、三期やつとつたけどね。どっちの農協の肩ももたれへんでしょう、難儀しました。土地改良区もできて間なしで、ぜんぶ入つたらへん。これを一つにまとめやなあかん。一年間かかつて一つにまとめました。今老人クラブもやつてて、やめたいやめたい思てるんやけど、これだけご奉公したらもうええと思ふんやけど

……。

「貧乏さっぱり」がよい

区長時代に市会も出ました（昭和三十四年）。その時分は、市長の寺嶋さんが枚方発展さそう思て、工場等誘致委員会を市会につくってね、バイパスもできますし、どんどん開発が進みます。僕も委員会で、あこらへん（中小企業団地）の工場という工場、皆関係しました。大林組、自動車教習場、日立、中小企業団地……。

そのときちょうど汚職問題起こりましてね、ちょうどそのとき僕も工場誘致委員ですわ。僕も警察のリストにのってるに決まってる。みんな警察に引ッ張られましたからね。僕が役所行たら、「あ、吉山さん来た！」「何やねん」「あんた警察引ッ張られてる（事情聴取受けてる）違うの？」「俺何で警察引ッ張られなあかんねん」「おかしいなあ」「俺みないな甲斐性のないもん、警察引ッ張りよるかい。リストにのせて、そら俺のからだだたいとるやろ。ゴミが出るか、ゴミが出やんか。出やなんたら、しゃあないやんか。俺みたいな甲斐性ないもんは、こんなもん（金）ようつかまんわ」言うて、笑たことありましたけどねえ。中には長いこと引ッ張られた奴いました。

しかし、悪い事勧めにきよる奴もいましたで。「金つかん

だらどやねん。今つかまなんだらつかむときないやないか。そしてその金バラまけ」「あほなこと言うな。俺そんな甲斐性ないもん。俺にそんな事要求すな。あかんあかん」。

つまり、ある会社の土地の買収のためにややこしいこと言うてくるわけですわ。「あんたなあ、その話成功させよ思てるなら、僕の私宅を訪問してくれたら困る。私宅訪問するんやったら、この話砕くど」……そこまで言いました。「話するんやったら助役室で話しよ」。そのぐらいしといていい加減なことですよ。悪い事して良心が苦しむよりも、貧乏さっぱりの方がよろしわ。気持がさっぱりして。市会は、二期しかやりませんでした。

（続く）



戦時色濃い菊人形が
スター(昭和16年)

(『枚方市史』第4巻より)

枚野井さぶろ

吉山清一さん(88歳、招提元町在住)

△その4▽

1990. 6. 1号

機銃掃射

話は戻りますが、戦争の頃、ここらは空襲なかつたです。灯火管制はあつたですよ。大阪が空襲で燃えたとき、大阪の阿倍野橋の辺に職員がおつたから、いっぺん見舞いに行つた。言うて、環状線乗つて行つたですよ。あっちこちどんどん燃えとるし、空襲警報が鳴る。「逃げよ」言うて天王寺公

園行たら、よう燃えとつた。

今の枚方パークのとは戦前も菊人形やつつた。しかし戦時中は、そんなぜいたくなことやつてられへんから、遊ばしとつた。その隅っこの方に電気室が一つだけ残つた。その電気室を青年学校の事務所にして、で、そこで何の用事もあらへんし、生徒もきよらへん。戦時中やもんねえ、教練仕込んでるどこやあらへん。人手がないぐらいや。

「今日はいいい天気やなあ」思てたら、淀川伝いに飛行機二機、低空飛行でビヤーツと来よつた。あつと思つてる間に、僕の覚えてるのは、ちょうど枚方の大橋の方から機銃掃射ババババババツてやつてくる。こっちはびっくりしてしもうてダアーンと電気室入るて思てたら、すぐそばの垣のところにババアーンと命中しよつた。そしたら歩くに歩かれへん。電気室に這うても入れれへん。そんなことがいっぺんありました。

B 29の夜襲

B 29が、第一編隊、第二編隊と編隊組んでブーンと飛んできよる。淀川伝いに入つてきて、四日市の辺りからまた太平洋にでよるんですね。夜さり、月夜の晩やつたら、そら美しかつたですよ。真っ白にキラキラ光つてねえ。「ああ、B 29や」思ても何もできへん。ラジオでちょっと報道するだけ

ですわね。B29が今どこどこから来て、また伊勢湾から太平洋へ脱出した……て。

日本全国あれだけ爆撃したけど、奈良と京都だけ爆弾落とさへんかったのは、えらいですなあ。やっぱり文化人やと思うわ。そうでしょう。大阪はまあ新興都市やから、これちゃう文化的遺産はないけども、奈良や京都、ことに奈良なんかは、何が何でも戦争に勝ったらええわい……ではないですわえ。やっぱり文化遺産大事にしてくれよったなあ。

望郷の思いがなくなる

今の子供は、同じ村ではあるけれども、組が違ったら友達になつてやへんねえ。昔は男と女と分れてたかて、招提のもんは友達やったけど、今は組いっしょやったら遠い団地の子でも友達で、組違たら、招提のもん同士でも遊ばへん。

昔のような郷土は、これからの人にはないやろと思う。郷土に対する愛着心は……。あんたら、どうです？ 石川啄木のような人でも、洪民村を逐われて海を渡り、北海道行って函館で、「故郷の訛りなつかし停車場の人込みの中にそを聞きに行く」と言う。そして函館の駅行って、洪民村を恋しく思う。そういう望郷の念いうのは、これからの人、ないやろと思う。故郷に帰りたいなあ、洪民村に帰りたいなあと思いつながら、啄木はついに北海道で死んでもうたけど、そうい

う望郷の念いうのはないやろと思う。

我々の時代は教育の中で、故郷に恋々として居るのは何も故郷を愛する由縁じゃない。もっと世界に雄飛せえ……て、さかんに言うてましたけどねえ、それもあの時代ですなあ。

“開発”という自然破壊

開発ということは、いいことはいいことやけど、一面から考えたら自然破壊ですわねえ。招提なら招提の自然を例にとつても、我々の子供の時分と今と、ぜんぜん違いますもんねえ。村外れの辻に立って東向いたかて、日置山があつて、それからずっと松林があつた。長尾山いう山なんかも、もうあらへん。郷土の風物ていうのが、もうぜんぜんないですわ。みんなみんななくなつてしまつた……。

うちの村の中に池が七つもあつたんですわ。その池もだんだんつぶしていきよる。もう田んぼがないからねえ。だから池つぶして公園化するとか考えるんでしょうけどねえ。何千年という長い間の自然景観が……。開発は一面ではブローカーの金もうけやから、土地の値も上げていきよる。で、自然破壊で



しょう、どんどんどんどん自然を砕いていきよるんやからね。昔の景観が、風土が、ほんとに懐かしいですよ。

「平和なる村」

六年生のとき、文部省の国語読本に「平和なる村」というのがあった。「この村は戸数二百五十、村長は村の旧家に生まれ……」、そういう文章でした。僕がちょうどそれを教えてたときに、日置山が当時ありましたけど、その上に立って西を眺めると、招提の村がずーっと見えるんです。教材とまったく同じような内容や。この村かてその時分、戸数二百四十〜二百五十しかないですわ。純農村でしょう、やっぱり村長は村の旧家に生まれてる。招提は貧弱町村ですよ。貧乏村でしたけども、山の上から眺めて、「平和だなあ」と感じ入ったもんです。敬応寺も、台風でこける前はひとときわ高う本堂が見えるし、藪があつてその間にわらぶきの屋根が点々と見える。今は一軒か二軒しかないが、ほとんどわらぶきでしたよ。

わらぶきもよろしいわ。三角形して立ってる屋根のあわいから、ちょうど今頃やったら昼の煙がぼーっと上がるとる。ごはん炊く煙がねえ。絵に描いたようなもんでしたよ。そういう煙を見て仁徳天王が「民のかまども賑わいにけり」と喜んだいう話もあります、今は煙なんか出やへん。(笑)あ

あいうのんどり(のんびり)した姿は、文化的遺産やと思う。道もみんな地道で、アスファルトなんかなかった。よろしかったですよ。

山を歩く

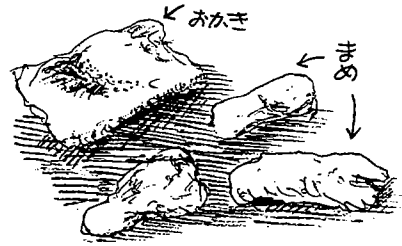
今でも私は万葉行脚に出かけたり、山へ歩きに行くんです。舗装の道を歩くよりも、自然の道歩く方がよろしいよ。この前は、家内と孫一人連れて貴船から鞍馬までずうっと山歩いてきた。おとといは「お爺ちゃん二人行こ」言うて、孫連れて比叡山行つた。頂上までケーブルで行て、ロープウェイ乗って、それから東海自然歩道探して、根本中堂まで降りてきた。面白いですよ。孫は中学二年生ですけど、「お爺ちゃん、こけなよー、こけなよー」て注意してくれる。それで、自分が滑つてこけとんねん。(笑)

「まめ」と「だんご」

そのおかき、家で作つてるんですよ。今は餅も機械でついでるけど、前は臼でついてました。三斗つくんですよ。百姓してるとねえ、小米(こむぎ)（ついたときに砕けた米）いうのができるとるんです。その小米を、モチ米も入れて、だんごをつくるんです。昔の百姓のおやつで田んぼに持ってくのは、おおかたこれでしょう。ほかあらへんですわ。

私ら子供の時分は嫌いでした。

「また、だんごまめか」言うて
あんまり食わへん。しかし食わ
なんだから吐られる。今は逆にお
いしいんです。昔はこんなもん
いっぱいあったから嫌やったけ
ど、今は孫もおいしい言うてま
す。「なんかないか」「まめ持
ってけ」……和服着て前かけも
している。その前垂れにまめ入れて、それがお八つですわ。
そのあられ、それをまめ言うんです。そしてその幅の広い長
方形の方はかきもちです。



今にしたらそのだんごはおいしいけど、その時分はだんご
が嫌やった。それで放って犬にやったりしてました。(笑)
犬は喜んでくうとる。よそのまめさんは、自分とこのよりお
いしいらしいんですわ。おんなじことやけどね。

うちの孫は、このおかきの方が好きです。これ干すのんに
難儀しますねん。もち箱に並べて、少し乾いてから一枚ずつ
広げて干しますねん。そしたらくるとかえりますやろ。薄
いから。そしたらまた裏返しますねん。年寄りいてへんかっ
たら、こんな事できませんわ。

昔の牛肉はおいしかった

昔は、みんな百姓で朝から晩まで筋肉労働ばかりやって
たけど、食べるもんは粗食で、おかずいうても漬けもんぐら
いが主ですわ。我々の頃は、今貴重品になってる鰯とか棒鱈
とか、そんなもんはざらにあったけど、すき焼きなんて、な
かなか食わしてもらえへんですよ。皆ほとんど農家やから、
ニワトリ飼うてますわねえ。盆とか正月とか祭とかにはニワ
トリつぶしたけどねえ。牛肉なんてなかなか……。そのかわ
り、今の牛肉よりはずっとええでしょう、昔の牛肉は。今は
七百円、八百円出したかて、昔のような味のんはあらへん。

三代先はどうなるのか……

今の時代がいちばんいいでしょうね。これから三代先にな
ったら、世の中変わってくるし、ほんまに働かな食えんよう
になってしまふの違いますか。今やったら、百姓家はんも皆
田んぼか土地持ってますけど、その土地も皆売ってまったら、
さあ、えらいことですわ。三代先なったら、そんなもんあら
へんでしょ。だからみんな働かなあかん。

子供でも、一軒に一人いうのが増えるから、男と女として
も、二軒で一組や。両方とも親の面倒見なあかん。どっちに
も両親がある。老人に対する施設ができるやろけどね、それ

はわからへん。まあ、今の時代がいちばんええのと違いますか……。

(了)